

第7回新城地域審議会

平成19年5月1日(火)

新城市議会委員会室

第7回 新城地域審議会議事録

事務局 それでは、地域審議会を始めさせていただきます。

会長 今日は、よくぞ勇気を出して「つばさ共同保育園」の方、応募していただきまして、しかし、私共はあなた方、一つであっても、ご存知であるとは思いますが、たった一つ、あっても、真剣に質疑をさせていただきます。よろしくお願いします。

ご説明も10分ではありますが誠意を持ってやっていただきたいと思います。

それでは、審査会を始めたいと思います。よろしくお願いします。

この会議の署名委員として、福田吉夫委員、八木憲一郎委員をお願いします。

それでは、「つばさ共同保育園」さん、今から10分間ご説明をお願いします。

申請者 私は、つばさ共同保育園から、今回の申請に対して、説明にまいりました と申します。

私の孫が、つばさ共同保育園の保育園児です。

保育園がもっと、地域社会の為に大きな発展をとげるように、地域社会の中で意味を持つように、私は、つばさ共同保育園に対してNPO法人にしようと、もっときちんと地域社会を意識した共同保育園をやっつけよう。

もちろん、いま学童保育もやっているのですが、もっと地域社会というものを意識しようと、NPO法人化を進めよう。たまたま私が、日本で一番大きなNPO法人や、日本で一番古いNPO法人の、代表や副代表をずっとやってきたものですから。

私は鎌倉から10年前にこの地域にやってきたものですからね。

で、その経験があって、NPO法人化を進めるお手伝いをしております。

コダイ音楽教室、今回のコダイ音楽教室についても、実は鎌倉の頃から、それにずーと関わってまいりまして、我が家の子供たちは、その中で音楽好きになっていった。

私の4人の子供の上から三番目の娘は、東京芸大を出てニューヨークで、今バイオリンのプロとして、30歳なんです、弾いているんですね。ずーと長くコダイ音楽教室に関わってきましたので、私のほうから説明をさせていただくこととなりました。

まず、最初に「コダイ音楽教室ってなんなのか」ということをお話しした後で、それをやることによって、「何の役に立つ」の「地域社会に何の貢献になる」と言うことを、残された時間でお話しさせていただこうと思います。

「コダイ音楽教室」の「コダイ」というのは人の名前です。ハンガリーの大層有名な作曲家であり、音楽教育の上では忘れることの出来ない人です。この「コダイ音楽教室」を日本の社会の中でやることの意味と言うのは、幾つかございます。

日本の音楽教育は明治以降、近代音楽、西洋音楽の音楽教育をやっつけまいりました。

ところが、日本の伝統音楽というのは、西洋音楽とは違うんですね。

御存知のように西洋音楽というのは7つの音で出来ているわけです。

音階が7つで出来ているのです。ドレミファソラシドという。

日本の伝統音楽というのは、7つの音で出来ているのではないのです。

5つの音で出来ているのです。

5つの音で出来上がってきた音楽の伝統と言うものを、我々はDNAの中に持っている訳です。その我々が7つの音で出来上がった音楽を学んでいく、ということには多少なりとも困難が伴う。これをもの見事に解決をして「国民が皆音楽が好きになるように」と、いうことを考えに考えて、音楽教育のメソッドとして確立していったのが、ハンガリーの「コダイ」なんですね。

このコダイという人が、ハンガリーの人だということが大変大事です。

実はハンガリーと言うのは、日本と非常に似通ってしまっていてね、コダイという人は「ゾルタン・コダイ」と言う風に呼ばれているのですが、実はそれは西洋の名前の呼び方であって、ハンガリーでは、「コダイ・ゾルタン」と呼ぶのです。苗字が先なんです。

世界中で苗字が先という国は少ないんですね。

その、朝鮮半島とか、中国とか、ハンガリーとか、アジア系の人達の間で苗字が先、名前が後。ハンガリーの音楽というのも5音なんです。

5つの音で出来上がっているのです。

大変音楽が盛んな、踊りの盛んな国ですが、その中で西洋音楽というものに取り組んで言ったときに、我々が今抱えている困難と同じ困難を抱えた。

それを乗り越えていく、そして音楽が嫌いになること無しに、音楽を好きになる様に、好きになる様に、働きかけながら、音楽教育を成功させてきたのが「コダイ」です。

ハンガリーでは、どこの町に行っても「どんな人でも歌が歌える」、「音楽を楽しむことが出来る」、「皆が踊る」ということが実現しているのですね。

日本でもそれは、同じような事情で出来るのではないかということが、日本での「コダイ音楽教室」の始まりです。日本中でもう既にコダイ音楽教室は広く行われております。

大きな成果を上げているのですね。

私たちがこの地域に移ってまいりましてから、作手村で、私たちは作手村に移ってきたもんですから、作手村で早速、移ってきたその年からコダイ音楽教室をやってきて、作手の子供たちと一緒に、音楽を楽しんできました。

大きな成果が、徐々に地域社会に広がっていると言う風に、私たちは考えています。

この度、同じことを「つばさ共同保育園」でやってみようと、それも、つばさ共同保育園の園児に対して、父母に対して行うというだけではなくて、「広く地域社会に開かれたものとして」これをやる。

「音楽が好きになろう」、「踊ったりすることが好きになろう」、コダイの考え方の一番の出発点は、「人間は生まれながらにして、最高の楽器を持っているのだ」それは「声」というものだ、「声帯」というものだ。「誰でも持っている」だから、楽器が、特別にピアノがあるとか、何かがあるとかとは無しに「人は誰でも何処でも、いつでも音楽が出来るんだ」そして、「この人間の肉体というものが、最高にそれを表現する手段なんだ」。だから、「人」が居さえすればいい、「楽器」が無ければいけない、「ホール」で無ければならないということが、全くないんだと言うことが、コダイのものの考え方です。

ハンガリーでも、ハンガリーの5つの音で出来た、ハンガリーの古い伝統的な音楽、我々で言えば「わらべ歌」のような、そういう音楽からスタートをしています。

日本でも誰でも知っている「わらべ歌」をベースにして、7音の音楽が教育始まっていくのです。これを見事に融合させているのが、コダイの音楽教育のメソッドだと思います。

知らず知らずのうちに、いつの間にやら音楽が好きになっていくうちに、子供たちが大人の我々

から見ると、びっくりするような音楽理論に相当すること、それは、そういう音楽理論では教えていないのですが、その音楽理論に相当するようなことを、小さい子供たちがやり始めているのです。自然に「ハーモニー」ということを覚えていき、「リズム」ということを覚えていき、そういう「音楽教育の3つの要素があってね」というような教え方は、一つもしないのですが、「踊ったり」「からだを使って歌ったり」するうちに、次第に、次第にそういうところに、子供達を導いていっています。

ですから、子供たちは自分では、そうとは気がつかない間に、非常に高い水準の音楽的能力を身につけていくという事が、結果として起きています。

私は、特に5音の世界、5音の音楽を持ってきた民族が、7音の西洋音楽を受け入れていった、それを自分たちの文化とするために、我々に与えられた最高の音楽教育の方法なんだと言う風に思っています。

「音楽の好きな人」を沢山作ろう、「音楽が無くては1日も済まないんだ」、「暮らしの中に音楽のある人達」を作りたい。その人達は「歌う」ということや、自分達が「身体を動かすこと」によって、人に働きかけをすることが出来る訳です。その輪を地域社会に、どんどん広げていけることが出来るだろう。

つばさという小さな保育園の中にとどまらないで、新城という大きな地域にその輪を広げていくことは不可能ではないと思います。

大きな可能性があって、「誰でも音楽が好きだ」ということからスタートした。

事務局 時間です

会長 ありがとうございます。それでは10分間、質疑に入ります。
質問等、よろしくお願ひします。どうぞ、 委員

委員 音楽必要理論、コダイの音楽理論非常に良くわかりました。

私が申請書を見させていただきまして、非常に気になったのは参加人数が、親子12組だということなんです。「広めていきたい」という目的には、「チョット少なすぎるのではないか」と思うので、そのへんの「地域に知らしめる」その他の手段ということについて、何かお考えがあるのでしょうか？

申請者 それは「12名を越える数になるために」ということなんでしょうか？
もっと広範囲にということ？

委員 例えば、地域の幼児教育に関わる人達に、その場面とかを見に来ていただいて知ってもらおうとか、そういうお考えは、申請書を提出される時点では、なにも無かったのでしょうか？

申請者 実は作手でも我々は、沢山のお母さん方や子供たちや、それから音楽教育に実際に携わっている人達に、見学に来ていただいています。実際に蒲郡とか、そういう所で、そこから広がっているのです。新しい音楽教室が始まっていっている。

音楽教室そのものが、いっぺんに100人の人を対象にというよりは、もう少し小さい規模のほう

が効果的なのかもしれないが、それが無数に広がっていくと言う効果はあると思います。
それは、私たちが非常に強く意図しているところです。
鎌倉でもそうしてまいりました。

委 員 そういうお考えは、あるということですね。

申請者 今12組と言うことにしているのですが、まず新聞広告で、まず皆さんに知っていただくこと、
思っていて、昨年も同じようにしてのですが、かなり広範囲に平等に、その内容が行くと思
うのです。その広告の内容の中に、今言ったように、いかに良いものなのかということ、既製
の、新城に主にあった、従来型の大手の音楽教室とは違う、いい意味での学びの場があるとい
うことをその広告を通して、皆に知ってもらいたいと、いうことを考えていることと、あと例えば、
新城の皆さん意識が高くて殺到するくらいであれば、とってもいいなと思っていて、もし人
数が多い場合は、やっぱり1回の人数があまりにも多い場合には、判ると思うんですが、先生に
対して何十人にも一緒では、手遊びとか、1人1人に対してやっていただける音楽教室なので、
あまり多すぎると価値が半減するので、機会を2回に1回、1日のうちに前半後半と、人数を2
回に分けて、多い場合は対応するというようなことは、考えていることと、今言われたように、
教育、保母さんなり何なりで、興味を持っている方はお見えになると思いますので、私も声をか
けられた事がありまして、そういった場合には、最後に12月に総まとめで、この音楽教室の総
まとめのようなことを、広くいろんな方に来ていただいて、発表兼学びの場にしたいと思ってい
るので、そのとき沢山の市の保母さんなど、興味のある方に来ていただいて、市立の保育園、新
城市の保育園でもいいものは取り入れて、子供たちに広めてもらったらなと思います。

会 長 はい。ほかに
委員

委 員 今さんが言われたように「今までもやってられた」ことなんですよ。
このことについては？

申請者 「つばさ」ではやっていないですが。

委 員 「つばさ」では初めて？

申請者 「つばさ」では初めてです。
作手ではやっていましたが。

委 員 作手でやっていて「つばさ」では初めてですか？

申請者 はい、そのとおりです。

委 員 なるほど、それからもう一点。

19年度の予算書の中で、補助金の関係が287,000円と出ていますが、これはどこからか補助金が出ているのでしょうか？

申請者 今回のを、計上してしまいました。

委員 今回の申請額を入れてしまったわけですか。
こちらのほうを見ると、一応300,000円なんですけど？
この辺の金額が合わないのですけれども？

申請者 すいません。
これを作ったときと、この後で修正があって、提出した時のが、若干違ってまして。
私の不手際です。
この予算がそのまま入っていて、チョット後から修正し直した時に値段が上がってしまって、
300,000円になってしまったのですが、それが予算書のほうにきちんと反映し忘れてしまって、
申し訳ありません。

会長 ほかに？ 委員

委員 「つばさ保育園」の現状を教えてください。
どんなふう to 人数が集まって、現在何人ぐらいか。
0歳の人何人ぐらいか、詳細がわかりますか？

申請者 今現在14名です。
未満児、小さい赤ちゃんが4名位です。

委員 全部で14人ですね。現在は
この規約ですと、大体30名くらい収容できると書いてあるのですが、現在は14名しか。

申請者 そうです。現在は14名です。

委員 4月1日現在は14名ですね。

申請者 はい、そうです。

会長 それと今の事業、めざまちとの関係を質問してください。

委員 人数が非常に限定されているものですから、一般の方がどの程度浸透して、お集まりになるかということが非常に重要になってくると思いますが。

そのへんのPRは、今チョット聞きしましたが、私も作手でやっていることは知っておりまして、TVで放映されていて知っていましたが、PRを今後どの様にやっていくのが判

りましたら、チョットそのあたりを。

申請者 NPO法人として、今までは入ってくる人が園児であって、別に特に何かをすることは無い。積極的に地域社会に働きかけることは無くて、「入りたい」といったら入ってきていたのですね。

現状 14 人園児がいるわけですが、私はNPO法人となったら経営と言うようなことを同時に考えなくてはならなくなりますので、これは 30 人園児を確保しようと。そういう保育園なんだ、こういうことをやっている保育園なんだと言うことを広く市内の皆方さんに知っていたいで、

会 長 事業の関連を言ってください。

申請者 その中で、この「コダイ音楽教室をやっているよ」と、またそこに参加してね。一緒に音楽をしようというようなことを広く呼びかけていく。

外にもいろいろ事業を考えていますので、連関をさせながら、新城の中で子育てと言うものを、もう一回考え直してみる大きなきっかけとなるような事業を進めたいと思いますし、その中の非常に重要な一翼として、この「コダイ音楽教室」を位置づけております。

会 長 委員

委 員 幾つか、質問させていただきます。

先ほど入所は、14 名と言われましたが、保育士の数は何名ですか？

申請者 保育士というと、保育に携わっている数

委 員 はい

申請者 6 名です。

委 員 大人が 6 名ですね

申請者 8 名です。

委 員 給食も含めて 8 名ですね。

申請者 はい

委 員 先ほどからのお話を沢山伺った、この「コダイ」のことなんですけれどもここ、楽器の使用料が書いてあるのですけれども、支出予定のところ。

こちらをみると、子供に必要なのは身体だとうたわれている中で、この楽器の使用料を必要とされるほどの楽器とはどんなものなののでしょうか？

申請者 それに関しましては、先生が太鼓とか凧とか、縫いぐるみとかをもってきてくださって、本当は何も使わないのが一番なのですけれども、小さな子供は物がないと、一寸入りづらいところがあって、先生が縫いぐるみとか持って、わらべ歌を歌いながらそれを子供に渡してみたり、その子が誰かに渡してみたり、凧みたいな物を上から、歌いながらなどとなると、子供が入り易いということがあって、先生がそういう物を持ってきてくださる。

そういう物をお借りする訳ですが、やはり子供なのでそういう物を、汚したり、目を取ってしまったり耳を欠かしたりすることがありまして、消耗品のように使ってしまうので、本当に若干なんですけれども、そういう事で先生にお渡ししたいなと思ひまして、楽器といっても「太鼓」とか「縫いぐるみ」とか、そういった小物のお金のことです。

委員 この事業が終わった後に、継続してこの先生の講演とか、講習会を聴くことが出来るのですか？

申請者 ちょっとまだ、やってみないと判らないのですが、出来れば続けていきたいとは考えています。この先生もちょっと遠いのですが、すごく広めたいという気持ちを、すごく強く持っていられる方なので、多分お願いすれば、足は運んでくださると思ひていて、強くお願いして、なるべくこの間に、広めて沢山の人の「続けてやりたい」という気持ちを持ってもらいたいと言う風に、すごく思っています。そういう希望を持ちながら、今回の事業を進めて生きたいと思ひます。

委員 今回はこの申請した事業のお金を当てて、その後のお金がかかってきますよね。その後のお金は徴収してやっていくということですか？

申請者 そう言うことです。まで、現実的には考えていませんが、音楽教室に行かせるには、お金を払いますよね。親が払うのは当然だと思うので、どういう形か値上げするのか。

申請者 それについても、NPO法人化を図っていきますので、NPO法人は、NPO法人として事業をやってまいりますので、広い意味での保育に、そこでの経費をある程度負担できるだろうという風に考えております。

事務局 時間です

会長 もう30秒

委員 もう一点だけ、今まででも「つばさ」さんは「リズム」が話題で、園のほうでもやられていた訳ですが、今までの「リズム運動」とこの「コダイ」の先生の音楽リズムの決定的な違いは、是非これをやりたいというのは、なんなんですか？

申請者 それは、今までのリズム運動が悪いとは思わないのですが、基本的に7音の世界のリズム運

動なんですよね。

我々の身体の中に流れているのは5音のDNAですので、その5音の世界で生きてきた、長い間ね。生きてきた人間たちが、7音の世界を受け入れていく。

これは特にこの東三河や奥三河で、これをやることに意義がありそうなことは、日本のコダイの研究者たちがハンガリーに、ハンガリーを訪れた事があるのですが、ついこの間の話なのですが、その時に、実は花祭りの音楽を持っていったのです。奥三河の花祭りの音楽を合唱曲にして、それをハンガリーで公演したわけです。コーラスにして、そうしたら、聞いていた人が「ハンガリーにもすごい音楽がまだ残っていたんだな。これはどこの地方の音楽なの」と言った、そうなんです。「いや、これは日本の音楽なんだ」ハンガリーの人達が何の違和感も無く「花祭り」の音楽を受け入れるという、素地が深い共通項があると思います。

おそらく、コダイの音楽教育を、子供たちも大人たちも非常に自然に受け入れられる、そういう物を「我々の身体の中に持っている」じゃないだろうかと思います。

会 長 時間ですので。ありがとうございました。

10分を少し超えましたが、質疑を終らせていただきます。

どうも、つばさ共同保育園さん ありがとうございました。

説明者 退席

会 長 それぞれ、採点並びに指導、講評に入ります。

会 長 採点を終わりましたか？

提出をお願いします。

それでは、採点票を事務局集めてください。

会 長 これにて、公開の審議会を終わります。